

24hr 走をやってみよう。大学卒業～社会人1年目での大きな転換を迎えて。

「24hr 走をやってみよう。」1年前にこの大会で走る小谷を見たときに、思った。去年は自分の気持ちはまだスタートラインに立てるほど強くなかった。エントリーシートは印刷したものの結局郵送せずじまい。ただせめて応援だけでも、と思い神宮外苑に来た。レースは衝撃的だった。噂にしか聞いたことがなかった有名ランナー達がたくさん目の前を走っていること。信じられないようなフレーズが飛び交うこと。そして何より、あの小谷があんなに長い時間走れないでいる姿を見るのは初めてだった。他の選手は代わらぬペースで走っているのに小谷が2時間も歩くなんで。彼はその1年、自分とは全く別次元の練習量・質をつんでいたのに。24hr 走を自分なりに知ってみたいと思った。走ったことのある人にしかわからないことがあるはずだし、それを知らずに 24hr 走について話すことは、よくないと思った。それに痛い、疲れた、眠い、、、なんて言いながらも走り続けるランナーは、幸せそうに見えた。

そんな経緯で今年の冬に初めての 24hr 走に参加した。神宮外苑で応援しているときは、あれだけウルトラ慣れしている方々がなぜ歩いてしまうのだろうか、と疑問に感じていた。が、自分でやってみてその理由が分かった。24hr は長い。例えすべて走りとおせるだけの体力があったとしても、残り時間への恐れからつい賢い計算をしたくなってしまうのだ、と。実際、自分も何周も歩いてしまった。無理すれば走れないわけではないのだが、歩きを入れないと気持ちが持たなかった。ただレース中ずっと心は満ち足りていた。偶然出会った人たちと趣味でつながれること、丸1日走らせてもらえること、多くの人が自分の走りを見て応援してくれること、、、楽しくないわけがない。走り終わったあとは大満足、つらかったけどまたこの幸せを感じたいと思うほどに。

そして今回の神宮外苑、社会人1年目で生活のリズムが作れず、まともに練習できていなかった。でも昨年見たレースが忘れられなかったし、出ずに後悔するよりは出て後悔しよう、と出場を決意した。当日不安のなかで走り始めたが、なぜか練習量に反して身体は動き、前回の記録を超えてしまった。これはハンドラー、エイドスタッフの方、走路員の方、応援してくれた方、一緒に走ったランナーのすごさ、、、自分以外の要因が全て前回レースよりプラスだったからだろう。しかし、記録更新とは裏腹に、今回のレースは満足からはほど遠かった。終わった後のことを考えてしまい力を出し切れなかったからだ。「まだやれるのに、こんな機会になぜもっと頑張って走れないのか」とずっと自問しながらも、ついつい歩き、止まり、座ってしまっていた。結局「まだ自分はやれるはず。」と言えるだけの余裕を持ったままゴールを迎えてしまった。今回の自分の走りは、全くのふぬけだった。

5年間、僕はずっと小谷の背中を見て走ってきた。でももう彼と同じ世界を走れていない。いい加減自分一人で走れるようにならなければ。まずは自分の気持ちに勝てるようにしよう。そんなことを感じたレースだった。

最近読んだエッセイに「夢は雲だ。」という言葉があった。手に入れるとすぐにそれは夢ではなくなってしまう。僕にとってのウルトラは毎日が、夢。やってみるまではものすごく遠く、別世界のように感じられる世界。でも飛び込んでみると、案外できてしまったりもする。実際はそんな甘い世界ではないのかもしれないけど、そんな心持でこれからも楽しく長く走り続けて行けたらと思う。そしていつかまた彼と一緒に走れるときが来たら嬉しい。